－所蔵作品紹介－

米坂　ヒデノリ　YONESAKA　Hidenori

間道を行け

かんどうをいけ

作品データはこちら

「エジプト逃避」すなわちユダヤの王ヘロデの迫害を逃れるためにベツレヘムからエジプトへと向かう聖家族を主題にした作品である。聖母マリアは幼児キリストを自らのマントの中にくるみ驢馬に乗ってヨセフの先導に従っている。しかしヨーロッパのキリスト教美術では、16世紀以降「エジプト逃避の途上の休息」というタイトルのもと、どちらかといえば牧歌的な雰囲気の中で表されることが多かったこの主題に対し、米坂は和やかさを廃した表現を試みている。

キリスト教者であると同時に、自らを「流れものの末裔」と称する米坂にとって、間道を行くこと、あるいは漂流、漂着というテーマが作品を制作する上でのひとつの課題となっている。人体立像は、砥の粉をふしたカツラ材により、その削ぎ落としたような厳しい造形は、漂泊してもなお生き続けるものの強靱さを伝えている。頭を心もち垂らしたような姿勢は、決して卑屈なものではなく、力を溜めた弓が大きくしなう様を彷彿とさせる。

米坂ヒデノリ（1934～）は釧路生まれ。東京芸大彫刻科で菊池一雄に師事して卒業後、自由美術家協会を主たる発表の場として、故郷の釧路で制作を続けていた。本作品も1975年の自由美術家協会展に出品された作品である。1987年夕張郡栗山町に居を改め、広いアトリエを得て活動の場を広げている。

旭川美術館だより「氷華」No.23（1990.３発行）「収蔵作品から」より